

平成 21 年度 社会厚生常任委員会行政視察報告書

平成 21 年 11 月 24 日

- | | | |
|---------|--|--------------|
| 1. 日 程 | 平成 21 年 10 月 14 日(水)～16 日(金) | |
| 2. 視察先 | 鳥取県・境港市 人口 36,292 人(平成 21 年 4 月 1 日現在)
島根県・松江市 人口 192,613 人(平成 21 年 3 月 31 日現在) | |
| 3. 視察事項 | 境港市 「ブックスタートプラス事業について」
松江市 「なごやか寄り合い事業について」 | |
| 4. 視察者 | 一行 8 名
委員会 広野豊作 委員長 森川 豊 副委員長
高橋禧雄 委員 大関勝正 委員 関 龍雄 委員
佐野正三良 委員 | |
| | 当局 | 和田正利 福祉事務所次長 |
| | 随行 | 美原弘美 議会事務局主査 |

境港市

【市の概要】

鳥取県北西端の弓ヶ浜半島北部に位置し、東は美保湾、西は中海に面し、南は米子市に接し、北は境水道を隔てて島根県松江市(旧美保関町)と相対しており、三方が海に面した自然条件のもとで、海を生かした産業基盤の整備が進められている。

交通は、米子空港の東京便・名古屋便のほか、平成 13 年から山陰初の国際定期航空路「米子—ソウル便」が就航しており、現在、滑走路 2500m 化の延長事業を進めている。

また、平成 16 年に松江市と結ぶ江島大橋が開通し、17 年には中海・宍道湖がラムサール条約に登録されたことを契機に、県境を越えた連携機運が一層高まり、中海圏域の一体的な発展が期待される中、港湾と空港を窓口として「北東アジアの表玄関」への取り組みを強め、環日本海交流の拠点都市を目指している。

また、境港市出身の漫画家・水木しげる氏の作品に登場する妖怪のオブジェなどを設置した「水木しげるロード」は、平成 5 年から 8 年にかけて全線が開通。さらに 15 年「水木しげる記念館」を完成し、昨年は 172 万人の観光客を迎えるなど、「さかなと鬼太郎のまち境港」とアピールしている。

【事業の概要】

1. ブックスタートとは

子育ての理想を掲げて「すべての赤ちゃんを対象に、楽しく、温かく、共に過ごす場の中で、絵本を開く嬉しい体験を通して絵本を手渡す活動」である。

2. 運動の背景

「子どもは親が育てるもの」の基本が、戸惑いと虐待の多い現実から「地域のみんなが育てるもの」へ、意識を変える考え方が生まれてきた。さらに、その理念の共有と健全育成のスタートラインが赤ちゃん時代にあり、一番の媒体が絵本であることに気づいた。

このことは1992年に英国で既に始まっていたが、日本では2001年4月に12市町村が採用、英国の推進団体ブックトラストの協力を得て設立した「特定非営利活動法人ブックスタート」の支援を受けて、全国各地に広がっている。

3. 境港市の取り組み

読み聞かせボランティアグループの要望を受けて2002年4月からスタートした。実施機関は、健康対策課(現・子育て支援課)、図書館、教育委員会、福祉課のほかに、複数のボランティアグループで構成する「ブックスタート連絡会」を結成して推進している。

関連して“児童虐待防止研修会”や、親子が自然の中で共に過ごす“触れ合いイベント”など様々に工夫して実施している。

その中で特に、地域子育て支援センターに「菜園」をオープンして、庭に芝生を植えた実践が際立っていた。参加者が苗作りから始め、育った苗を庭に定植して3ヵ月後には一面に繁茂した。かかった苗代が僅か800円。その後裸足で遊ぶ子どもたちの姿から利用状況も好評で、小学校のグラウンドにも波及している。

もう一つ目立つ事業に「赤ちゃん抱っこ授業」がある。子どもたちが、赤ちゃんを抱く体験を通して命の大切さを学ぶという画期的な試みである。と同時に親子の関係に思いをめぐらせ、地域ぐるみの活動としてコミュニケーションスキルを高める効果があるという。

なお、年間事業費は60万円(国・県・市町村各3分の1)である。

4. 他市町村の取り組み

参考的に新潟県の参画状況を次に記す。

五十音順に、魚沼市、刈羽村、佐渡市、三条市、上越市、聖籠町、関川村、津南町、燕市、長岡市、見附市、南魚沼市、村上市(旧朝日村地区・旧神林村地区)、湯沢町の14市町村。この中で特に長岡市の取り組みが目立つ。特徴は、行政担当者(企画課、図書館、健康課、児童福祉課、生涯学習課、社会福祉協議会)と、市民(読み聞かせボランティア、子育て中の保護者、親子サークル、母子保健推進員)による「ブックスタート推進ワーキンググループ」をつくり、実際の活動は市民ボランティアがやり、準備、実施、運営の中心を行政の企画課が担当している点である。

5. 所見

子育てを地域ぐるみで取り組む方策として具体的に示したよい事例である。特に、行政の専門機関と市民のボランティア参加を最大限生かすシステムの構築に感心した。しかし、典型的なソフト事業のため、成果を具体的な数値に表しにくい面があるので、その点をどう組み立てるかが課題であろう。

松江市

【市の概要】

山陰地方のほぼ中央、島根県の東部にあり、東に中海、西に宍道湖を抱いて南北に広がり、北は日本海に臨んでいる。宍道湖と中海を結ぶ大橋川周辺に平地、北には枕木山をはじめ島根半島の山々が、南には山陰・山陽の分水嶺中国山地が東西に長壁をつくっている。昭和 26 年に松江国際文化観光都市建設法が制定され、奈良市・京都市と並んで国際文化観光都市となった。さらに、平成 7 年には出雲・宍道湖・中海拠点都市地域に指定され、山陰の中核都市として発展してきている。平成 17 年 3 月 31 日に松江市、鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、宍道町、八束町の 8 市町村が合併し、新「松江市」が誕生した。

【事業の概要】

1. なごやか寄り合い事業とは

高齢者が心の交流を図ってより元気になるように、自主的な集会活動を促し、合わせて側面から支援する事業である。

2. 実施状況

- ① 事業開始年度 : 平成 12 年度
- ② 実施主体 : 地区社会福祉協議会
- ③ 介護保険施策での事業の位置づけ
: 地域支援事業の一つとして位置づけている(介護予防)
- ④ 事業実施方法 : 松江市社会福祉協議会へ事業委託している。
- ⑤ 開催方法 : 各公民館区の状況に合わせて実施
- ⑥ 運営スタッフ : 民生委員、福祉推進員、自治会、町内会、老人クラブ、ボランティアなど
- ⑦ 運営資金 : 松江市社協
・篤志寄付金配分金 上限 9 万円(立ち上げ時のみ)
: 地区社協
・立ち上げより 3 年目以降の会場に対して、運営のための補助や保険の財源となっている助成金(申請方式)
・すこやかライフ推進事業 1 地区上限 40 万の一部
・篤志寄付金配分金 地域補助金 上限 8 万 5 千円
・民間助成制度の活用
: 参加者・参加金
: 町内会・自治会の福祉予算を充てる
: 松江市・活動材料代(立ち上げから 2 年まで)
・保険加入費
- ⑧ 会場 : 公民館または集会所
- ⑨ 参加条件 : おおむね 65 歳以上で閉じこもりがちな高齢者及び、老化等により心身機能が低下している高齢者
- ⑩ 開催回数 : 月 1~2 回

- ⑪ 開催内容 : 手作りゲーム、手芸、高齢者体操、料理教室、季節行事、勉強会、カラオケ、外出、野菜作り、健康相談、などなど
- ⑫ 効果 : 高齢者が元気になった
近所づきあいが増えた
支えあいの意識が高まった
福祉に対する意識が高まった
情報発信・情報交換の場になった
- ⑬ 現在の活動状況 : 21年3月末現在で250会場立ち上がっている。(実施している会場233会場) 参加者数(21年3月末現在)5,812人(65歳以上の介護保険非該当者人口の約15.2%)

3. 広報活動

「なごやか通信」のタイトルで地区ごとに活動状況を載せ、事業の発展を目指して随時発行している。(A4版2~4頁)

4. 所見

加茂市においても似たようなことをやっている事業ではあるが、高邁な理想のもと、積極的に取り組む現場当事者との触れ合いに、改めて感嘆させられた。特に、事業方針が明確であって、同時に適正なリーダーの存在が不可欠であることを立証する場面を見せていただき、運営全般にわたり、人材の育成が重要な要素と認識を新たにした。

<総括所感>

ソフト事業の二つを視察させていただき、いずれも先進地の風格を実感した。境港市では、ユニークな発想に“妖怪のエネルギー”に触れた感動を覚え、松江市では、城下町の落ち着きに“計画の堅実性”を垣間見た。

福祉事業のプログラムは住民のニーズによって様々に生まれ、様々に工夫されてしかるべきところだが、此度の視察から得た教訓を加茂市にどう反映させるか、同行諸氏のご活躍に期待し、合わせて、ご指導くださった両市のご繁栄を祈念するとともに、改めて感謝申し上げたい。

以上